

植物の生活史と保全に関する研究

生物資源科学部 准教授 久保 満佐子

植物は、私たち人間だけではなく、多くの生き物に餌や住処を提供してくれています。一方で、植物自体が生き物であり、決して無尽蔵にあるものではありません。植物とその生育環境を保全するには、その種的生活史や生育条件を知り、適切な方法を決める必要があります。このため、植物に関する基礎研究を行うと共に、生育地の保全活動を行っています。主なものとして、1) 水源である溪畔林の動態の研究、2) 隠岐諸島の植生の研究、3) 絶滅危惧種が生育する半自然草原の保全、4) 島根の巨樹巨木の活用と保全などがあります。私たちが無意識に受けている植物がもたらす恩恵は、次の時代に生きる人たちのものでもあります。植物の研究を通して、どのような景色を残すのかを考えていきます。



荒川源流：源流では頻繁に攪乱が発生しているが、多様な樹種が森を維持している。



三瓶山麓 西の原：火入れにより草原が維持され、絶滅危惧種も生育する。



隠岐諸島 乳房杉：樹木は古来から信仰の対象とされてきた。樹木は動くことなく、数百年以上を生き、人の目には見えない恩恵を無数の生き物に与え続けている。その景色を次の時代に引き継ぐために、一人ずつ、少しずつの手間が必要なのではないだろうか。